

氏名 <small>(法人にあつては名称)</small>	マックスバリュ西日本株式会社
住所	広島県広島市南区段原南一丁目3-52 広島段原ショッピングセンター5階
計画期間	令和2年4月1日～令和5年3月31日
基準年度(*1)	令和元年度

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上 (特定事業者) <input checked="" type="checkbox"/> (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上 (特定事業者) <input type="checkbox"/> (3)特定事業者以外の事業者
------------	--

2 事業の概要

事業者の業種	各種食料品小売業 (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号：5811)
事業概要	食料品及び日用雑貨用品の小売販売

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下限は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元年度	令和2～令和4年度(平均値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和2～令和4年度(平均値)
温室効果ガス実排出量(*5)	24,538 t-CO ₂	24,293 t-CO ₂	21,870 t-CO ₂	21,478 t-CO ₂	20,256 t-CO ₂	21,201 t-CO ₂
		1.0 %	10.9 %	12.5 %	17.5 %	13.6 %
温室効果ガスみなし排出量(*6)		24,293 t-CO ₂	21,870 t-CO ₂	21,478 t-CO ₂	20,256 t-CO ₂	21,201 t-CO ₂
		1.0 %	10.9 %	12.5 %	17.5 %	13.6 %
実績に対する自己評価	省エネに向けたハード・ソフト両面で取組み、電気とガスの使用量ともに前年より削減により、Co2排出量についても前年より減らす事に繋がった。					

*1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。

*2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。

*3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。

*4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六フッ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。

*5 温室効果ガス実排出量とは、上記(*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。

*6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$)

事業分類	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元年度	令和2~令和4年度(平均値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和2~令和4年度(平均値)
小売業	0.28905	0.28616	0.2518	0.20153	0.19007	0.2145
		1.0 %	12.9 %	30.3 %	34.2 %	25.8 %
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び実績に対する自己評価	電気使用量削減による温室効果ガス排出量削減により前年よりも数値改善につながった。					

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

温室効果ガス排出量の抑制に向け、基本照明や棚照明、外灯照明のLED化の省エネ機器の導入や、冷蔵冷ケースでは冷媒ガス入れ替えによる設備更新、空調入れ替えなどハード面での省エネ対策を実施した。また、ソフト面についても、冷ケースの負荷低減を目的にナイトカバー未設置箇所の保冷を目的に保冷シートで覆う事で、負荷低減による電気使用量削減につながった。その他にも未使用機器の電源OFF、照明のまびきや不在時の消灯、スポット照明の撤去・間引き、冷ケース棚照明の一部消灯の取組んだ結果、電気使用量の削減によるCo2排出量削減に効果が見られた。

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値(*8)の活用等)

特になし

4 その他の取組の実施状況

クールビズ、ウォームビズの実施、ISO14001マネジメントシステムを活用した電気使用量削減の目標管理

*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。
 *8 環境価値とは、オフセットクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。